

平成 20 年（2008 年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2008 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～3）

9 月 22 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

北西側中腹の爆裂火口からはごく弱い噴気が認められ、赤外熱映像装置¹⁾による観測では引き続き弱い地熱域が確認されましたが、前回（2007 年 5 月）の観測結果と比較して地熱域の拡大や温度上昇は認められませんでした。

山頂部では噴気は確認されませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

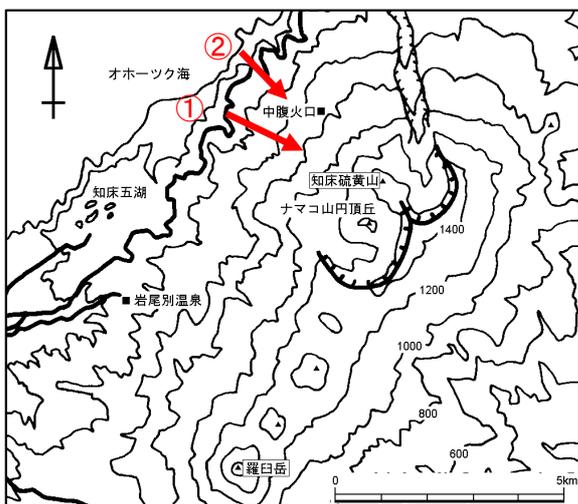


図 1 知床硫黄山 周辺図



図 2 知床硫黄山 知床硫黄山周辺の状況
(2008 年 9 月 22 日 図 1 の①方向上空より撮影)

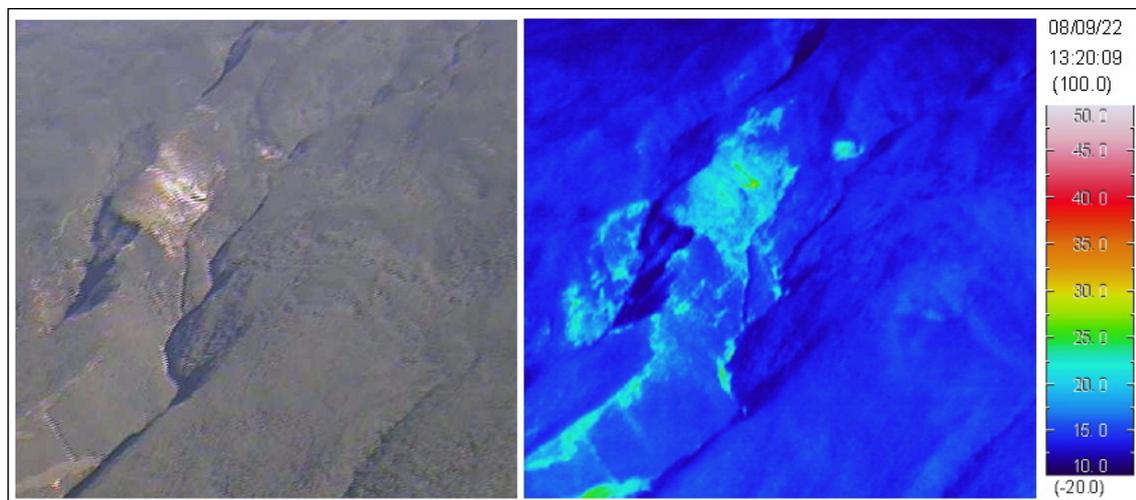


図 3 知床硫黄山 赤外熱映像装置¹⁾による北西側中腹の爆裂火口付近の地表面温度分布
(2008 年 9 月 22 日 図 1 の②方向上空より撮影)